新国立劇場ニュース
報道関係者各位
（全４枚送付）

2023 年 12 月 20 日
公益財団法人 新国立劇場運営財団

# 新国立劇場　こどものためのバレエ劇場 2024
# 『人魚姫』上演決定のお知らせ

平素は当劇場公演に格別のご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。
「こどものためのバレエ劇場 2024」公演が、貝川鐵夫振付の新国立劇場バレエ団委嘱作品・世界初演『人魚姫』に決定いたしました。

新国立劇場 こどものためのバレエ劇場 2024
『人魚姫』～ある少女の物語～
＜新国立劇場バレエ団委嘱作品・世界初演＞

日時：2024 年 7 月 27 日～30 日（全 8 回公演）
会場：新国立劇場 オペラパレス

振付：貝川鐵夫　音楽：C.ドビュッシー／J.マスネ ほか
美術：川口直次　衣裳：植田和子　照明：川口雅弘　音響：仲田竜太

＜チケット発売＞
アトレ会員先行販売期間：2024 年 4 月 27 日（土）10:00～5 月 8 日（水）
新国メンバーズ先行販売期間：2024 年 4 月 28 日（日）10:00～5 月 8 日（水）
一般発売日：2024 年 5 月 12 日（日）10:00～

振付を手掛けるのは 2022 年まで新国立劇場に 22 年間ダンサーとして在籍した貝川鐵夫。バレエ団の中から振付家を育てるプロジェクト「NBJ Choreographic Group」に発足当初から参加し、いくつもの作品を発表。21 年新国立劇場＜子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ＞『Super Angels スーパーエンジェル』でも振付を担当するなど、振付家として意欲的に活動しています。
クリエイティブスタッフには新国立劇場でも数多くの作品の美術を手掛けてきた川口直次、貝川と協働を重ねてきた衣裳デザイナーの植田和子が加わり、誰もが知るアンデルセン童話の「人魚姫」をモチーフにした新作バレエを貝川と共に創り上げます。

人間の世界に憧れた人魚姫が海の外で出会うのは、恋の喜び、悲しみ、そして…… この世の不条理に触れた人魚姫の切ないラブストーリーを、新国立劇場バレエ団から誕生するオリジナルバレエとしてお届けします。子どもから大人までの全ての世代の皆様に向けた、バレエの魅力が詰まった舞台にぜひご期待ください。

報道関係者各位におかれましては、一般の皆様への周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**【ものがたり】**

嵐の夜、人魚姫は海で溺れていた王子を助けます。人魚姫は王子に憧れ、魔女の魔法で人間となりました。
再び出会った二人は互いに惹かれあいますが、王子には既に決められた婚約者がいたのです…。

**【新国立劇場 こどものためのバレエ劇場について】**

新国立劇場では、次世代を担う子どもたちが、優れたバレエ芸術に触れられる機会を提供する目的で、2009 年より「新国立劇場 こどものためのバレエ劇場」を実施してまいりました。
お子様の“バレエ観劇デビュー”を考えながらも、全幕のバレエを観るには少し早いと感じていらっしゃる低年齢層のお子様がいらっしゃるご家庭や、初めてバレエをご覧になる方々に向けて、バレエの美しさ、楽しさを 1 時間半前後に凝縮した『しらゆき姫』(2009 年)、『シンデレラ』(2012 年)、『白鳥の湖』(2016 年)、『竜宮 りゅうぐう』(2020 年) と新制作上演を重ねてきました。
2023 年には、英国バーミンガム・ロイヤル・バレエ「First Steps:Swan Lake」を日本向けにアレンジし、ナレーターによる、バレエの舞台を構成する要素の解説やストーリー展開のナレーションなどを挟みながら、第 3 幕を中心に『白鳥の湖』の魅力を凝縮した「エデュケーショナル・プログラム『白鳥の湖』」を上演。
いずれも、子どもにとって身近な原作をもとにした、わかりやすい語り口でつくられていると同時に本格的なクラシック・バレエとして振り付けられ、お子様連れの大人の方にも十分見ごたえのある作品として仕上げられています。

**【吉田都舞踊芸術監督よりメッセージ】**

2024 年夏、「こどものためのバレエ劇場『人魚姫』」を世界初演いたします。
今回の企画は新国立劇場バレエ団から振付家を育てるため、デヴィッド・ビントレー元舞踊芸術監督の発案・監修のもとに発足したプロジェクト「NBJ Choreographic Group」において、「全幕バレエを」という構想からスタートいたしました。2021 年に“物語バレエ”をテーマに作品を募集し、貝川さんの『人魚姫』を「こどものためのバレエ劇場」の新作として膨らませることとなりました。
童話として親しまれている『人魚姫』をバレエにすることで、お子様やバレエにあまり馴染みのない大人の方がバレエを楽しまれ、身近に感じてくださることを期待しております。
バレエは言葉を発しないため、子どもたちの受け止め方は無限で、さまざまな想像をかき立てられることでしょう。「子どもたちの想像力・創造力を豊かにしたい」。貝川さんや私が「こどものためのバレエ劇場」へ向けて持つ思いです。新国立劇場、そして「こどものためのバレエ劇場」がお子様たちの未来を育む場になるよう、努めてまいります。

**【演出・振付　貝川鐵夫よりメッセージ】**

2024 年夏のこどものためのバレエ劇場『人魚姫』で、振付・演出を務めさせていただきます。
新国立劇場バレエ団に在籍中は、立ち役から主役、クラシックからコンテンポラリーまであらゆる役や作品を経験させていただきました。また、ビントレー元芸術監督時代に「NBJ Choreographic Group」ができ、それ以来振付活動をしてきました。その結実として、今回このような機会を頂戴することとなり、感謝申し上げます。『人魚姫』はパ・ド・ドゥとして最初に「NBJ Choreographic Group」で発表しましたが、吉田芸術監督に見出され全 2 幕の全幕バレエとして生まれ変わります。

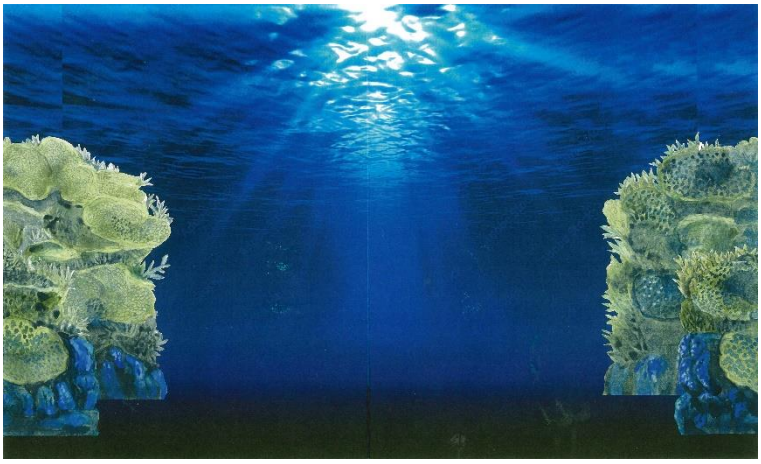
今作品はアンデルセンの「人魚姫」をモチーフにしました。
彼女が王子との恋は実らず泡となってしまうという切ないストーリーは多くの方が親しまれているかと思いますが、実は泡となったその後 300 年間、天国に召されるまで風の精として過ごすという結末をご存知の方は少ないかもしれません。「親から愛しみを受ける子どもを見つけて私たちも微笑むと 300 年の試練は 1 年ずつ短くなる。逆に、親を悲しませる悪い子を見て涙を流すと 1 日ずつ長くなる」。物語のラストで人魚姫は他の風の精霊たちからそのように教わります。何か教訓めいたその示唆は、私たちに問題を出されているような、ここに大事なことが隠されていそうな…そんな思いを抱きながら作品全体を構想しました。

使用楽曲はドビュッシー、サティ、グリンカ、メンデルスゾーン、ヴェルディ、ロッシーニ、マスネなど、19 世紀に活躍した作曲家の音楽を中心に選びました。19 世紀はクラシック音楽においてあらゆる音楽表現が生まれた時期とも思えるのです。美しい旋律、形式、ダイナミック性、繊細性、呼吸、その 1 音 1 音が物語表現に欠かせない存在です。

人魚姫は深海奥深くから、人間の魂に憧れ、未知の地上へと足を踏み入れ、様々な人間模様、喜び、おかしさ、寂しさ、醜さ、辛さを経験します。
そして、人魚姫は人間の魂をどのように思い生きていくのか。

この物語にはわかりやすい答えがある訳ではありません。子どもたち一人ひとりの感じるままに、このバレエをご覧いただきたいです。

植田和子による衣裳デザイン画（人魚姫）



川口直次による舞台装置デザイン画

【クリエイティブスタッフ　プロフィール】

## 振付：貝川鐵夫　KAIKAWA Tetsuo

兵庫県出身。平櫛バレエ姫路、潮田弘子バレエ研究所を経て、ワガノワバレエ学校に留学し、1998 年卒業。99 年モナコ・プリンセスグレース・アカデミーに留学。2000 年新国立劇場バレエ団に入団し、04 年ソリスト、11 年ファースト・ソリストに昇格。21 年よりプリンシパル・キャラクター・アーティスト。『白鳥の湖』『ドン・キホーテ』『シンデレラ』主役のほか、石井潤『カルメン』ホセや、マクミラン『ロメオとジュリエット』ではパリス、キャピュレット卿、ティボルトを演じるなど、幅広い作品で重要な役柄を踊り、22 年に退団。振付家としては NBJ Choreographic Group で活動を始め、意欲的に作品を発表。『フォリア』は 16 年「ニューイヤー・バレエ」でも上演され、21 年新国立劇場＜子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ＞『Super Angels スーパーエンジェル』でも振付を担当するなど、活動の幅を広げている。主な受賞歴に、96 年こうべ全国洋舞コンクール・バレエ男性ジュニアの部第 2 位、12 年姫路市芸術文化奨励賞など。新国立劇場バレエ研修所振付家 兼コンテンポラリーバレエ講師。

## 美術：川口直次（KAWAGUCHI Naoji）

1962 年日本放送協会に入局。大河ドラマなどテレビドラマの美術で活躍するかたわら、オペラ・バレエ・演劇などの舞台美術を数多く手がける。77 年伊藤熹朔賞受賞。83 年文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊。日本放送協会を退職後、武蔵野美術大学で、舞台美術、映像美術の教育に携わる。新国立劇場のバレエ公演では、『パキータ』「こどものためのバレエ劇場　『シンデレラ』」、2014 年『眠れる森の美女』、15 年『ホフマン物語』、17 年『くるみ割り人形』、オペラ公演では『セビリアの理髪師』『トスカ』『こうもり』の美術を手がけた。バレエの代表作としては、『新白鳥の湖』『ロミオとジュリエット』（松山バレエ団）、『ドン・キホーテ』（牧阿佐美バレエ団）など。近年手がけたオペラ作品としては『ラ・ボエーム』『フィガロの結婚』『セビリアの理髪師』（名古屋二期会）、新作オペラ『いのち』（長崎県オペラ協会公演）などがある。オペラ、バレエのほかに演劇や映画の美術を多数手がけており、代表的な映画作品に伊丹十三監督作品『静かな生活』『スーパーの女』『マルタイの女』がある。武蔵野美術大学名誉教授。

## 衣裳：植田和子（UEDA Kazuko）

文化学園大学　服装学科卒業。(株)カネコイサオにパターンナーとして入社。その後、一点ものの衣裳製作に憧れ工房いーち入社、新国立劇場のバレエ、オペラ公演の衣裳製作に携わる。フリーの衣裳製作者として独立後、演劇、ミュージカル、コンサートなど幅広く舞台衣裳製作に携わる。プランナーとしては、新国立劇場「DANCE to the future」貝川鐵夫振付作品『カンパネラ』『ロマンス』を手掛けた。

## 照明：川口雅弘（KAWAGUCHI Masahiro）

1985 年大庭照明研究所に入所以来、帝国劇場に勤務し多くの演劇やミュージカルに携わる。97 年新国立劇場に移り演劇研修所『三文オペラ』『珊瑚囁』、バレエ『セレナーデ』『アンドワルツ』、オペラ『オテロ』『沈黙』、こどものためのオペラ劇場『パルジファルとふしぎな聖杯』、「ニューイヤーオペラパレスガラ」などの照明を手がけている。

## 音響：仲田竜太（NAKADA Ryuta）

フリックプロ所属。新国立劇場を中心にバレエ・オペラ・演劇作品に参加し、舞台音響プランを学ぶ。新国立劇場バレエ団で音響プランを務めた主な作品として、「こどものためのバレエ劇場 2023　エデュケーショナル・プログラム『白鳥の湖』」、森山開次『竜宮 りゅうぐう』、「DANCE to the Future 2023」などがある。

【資料・写真のご請求、本記事に関するお問い合わせ】
舞踊広報：清水千奈美
TEL：03-5352-5735 / FAX：03-5352-5709 /E-mail: shimizu_c4725@nntt.jac.go.jp